

これらのユニットは同社の最上級モデルで、トワイターにはアルミ射出成型のフレームを使用している。表面に無数の突起が施されているが、徐々に変化する分散パターンを用いた独自のADP技術によるもので、指向性に優れた超域での反射による干渉を防いでいるという。またボイスコイルはCCA W(銅クラッドアルミ線)で、ボビンがアルミとして軽量化を図った構成。銅リングや磁性流

■「GT-1.0」「GT-2.0」の魅力
トワイターとウーファーには
射出成型のアルミフレームを採用

後3年間精密加工機械会社に在籍し、トワイターに入社して技術部長も務めたという。2000年に退職してATOHM社を設立し、ドライバユニットの開発を手がけてきた。著名メーカーへのユニット供給やDIY製品などの生産を行い、2004年には初の自社ブランド製品を発表。ここで紹介するGTシリーズも、その時に開発された専用ユニットABSOLUTEを使用している。日本で発売される両機の使用ユニットは同一で、トワイターはシルクドーム、ウーファーは15cmの特殊合金製メタルコーンである。ブックシェルフ型のGT-1.0はクロスオーバーを2.5kHzとした2ウェイ、フロア型のGT-2.0はウーファー2基をスタガーとした2.5ウェイだ。

上下に伸びがよく、特に2.0では低域の透明な質感が素々と再現されている。解像度の高さが窺われる音調だ。高域にも棘や濁りがなく、輪郭が明瞭で澄んだ響きに乗る。レスポンスが均一なのも設計の確かさを物語るが、位相がびつたり揃いピンポイントに合っているのがことに印象的だ。技術と感性が見事に一致した再現性といつていい。

キャビネット全体はやや後傾した構造だが、ネットワークのフィルタリング処理とともに、ユニットの位置関係から生じる位相のずれも補正している。

低域は透明な質感を素々と再現
輪郭も明瞭で澄んだ響きに乗る

体によって歪みを低減し、ネオジウム・マグネットによる磁気回路やリアの特殊ダンピング処理で30kHzまでの滑らかな特性を得ている。ウーファーもやはり射出成型アルミフレームを使用。磁気回路は強力フェライトで構成し、ボイスコイルはカプトン/ノーマックスのボビンによって軽量・高剛性化されている。



ATOHM GT-1.0
¥367,500(ペア)

Specification
●形式:2ウェイバスレフ型●最大入力:100W●ピーク:200W●インピーダンス:6Ω●能率:89dB●周波数特性:45Hz~25kHz●ユニット:15cmウーファー×1、2.8cmトワイター×1●クロスオーバー周波数:2.5kHz●サイズ:200W×265D×330Hmm●質量:12kg

●ブックシェルフ型「GT-1.0」
音楽を生き活きと魅らせる
価格設定も極めて良心的

フランスから登場した注目の新ブランドの製品で15cm口径ウーファーの小型2ウェイ機ながら音楽再生に要求されるボトムエンドから高域までスムーズに伸びたワイドなレンジと高い解像度、高SN比を確保した現代的なサウンドが聴けた。それでいてハイエンドの最新鋭高性能機で散見されるナーバスなことなく駆動アンプを選ばず音楽を生き活きと魅らせる。これは近年の標準的なスピーカーよりも高い89dBという能率が確保されているからだろう。

質感もナチュラルで高効率機にありがちなアタック音を強める傾向がなく、ピアノのタッチやアコースティック・ギターのピッキングを生々しく引き出し、微細な余韻も高い透明度が確保されている。歪み成分や刺激的な響きを感じさせない純度の高いサウンドが魅力だ。またオリジナルユニットを搭載した高性能機でありながらペア36万円と量産メーカーの上級クラス程度に抑えているのは極めて良心的な価格設定といえる。

●トールボーイ型「GT-2.0」
設計者の確かな経歴と技術を物語る
大音量でも混濁なく解像度を引き出す

GT-1.0にウーファーを加えた2+1構成だけに低域レンジが確実に伸張し低音楽器の質感がよりリアルさが増す。クロス・ポイントが増えるが、その弱点を感じさせず、全帯域にわたり位相の乱れがないのはスラントさせたエンクロージャーと正しく設計されたネットワークの効果だろう。オーケストラや編成の大きなコンテンツ系ジャズを聴いても定位が乱れず3次元的に広がる正確な音場が展開される。

2ウェイ機をトールボーイ型機に発展させたシステムでは低域の量感が増すが解像度を甘くするケースが多い。しかし本機ではオーケストラの大音量部分でも混濁感がなく高い解像度が確保されていた。システムとして初の製品と聞くと、高い完成度を実現しているのは設計者の確かな経歴とユニット供給メーカーとしての設計・製造技術の高さを物語る。これはユニット供給を受けなくてはならないハイエンド・ブランドにはない大きな強みといえるだろう。

●レポート: 小林 貢
Mitsugu Kobayashi

フランス発、注目のニューカマー
ATOHMのスピーカーが上陸、その魅力を探る

技術と完成が見事に一致する再現性 設計の確かさが物語る 極めて正確な位相



注目のニューカマーである。音楽祭でも有名なフランスのプザンソンを本拠として設立したATOHM(アトム)。設立者のティエリー・コントは1970年にフランスで生まれ、早くから音楽やオーディオに興味を持ち、12歳のときに自身でスピーカーシステムを設計したという早熟な才能の持主である。マイクロ技術工学の専門知識を修めた

■「ATOHM」ブランドの紹介
天才エンジニアが手掛ける
オリジナルユニットを搭載

ATOHM GT-2.0
¥682,500(ペア)

Specification
●形式:2+1ウェイバスレフ型●最大入力:200W●ピーク:400W
●インピーダンス:6Ω●能率:90dB●周波数特性:40Hz~30kHz
●ユニット:15cmウーファー×2、2.8cmトワイター×1●クロスオーバー周波数:500Hz、2.5kHz●サイズ:240W×435D×1190Hmm●質量:26kg

